

## 農家の自律性向上を図る方法に関する研究

1240476 長尾大輝

指導教員 土屋哲

### 研究背景

現在、わが国は労働人口の減少という問題に直面している。中でも、「農業界」は著しい減少傾向を示している。この問題の根幹には、「農家のモチベーション」が大きく関わっていると考えられる。エドワード・L. デシらの「人を伸ばす力～内発と自律のすすめ～」では、人の意欲と能力を伸ばすために「内発的動機づけ」と「自律性」の重要性を説き、実証している。

### 研究目的

本研究では、農家の自律性が生産性の向上ややりがいにつながり、結果として農業という産業の魅力を高めることにつながるとの前提のもと、自律性がどんな条件の下で、どのような要因によって発生し、促進されるのかを明らかにする。

### 研究方法

本研究では、高知大学と高知工科大学が共同で推進している IoP 事業に関わる香美市の農業従事者を対象に調査を実施し、農業と自律性に関して考察を行うための情報を入手した。調査は半構造化インタビュー形式で行い、自律性につながる4つの質問を軸にして伺い、得られた回答からさらに気になる箇所を深く掘り下げる方法で実施した。

### 分析結果

どの質問に対しても、自分らしさの実現ややりがいを感じられる回答が得られたため、自律性をもって農業に取り組んでいることがよく理解できた。インタビューで得られた回答は、自己決定理論の「関係性欲求」や「自律性欲求」に当てはめて解釈することができ、これらの欲求が IoP のような新しい技術を手に入れることができる要因であることが分かった。

### 考察・結論

自律性を持った農家は、農業界の進化に貢献できる力を秘めている。大規模組織のような統制の要素を秘めている環境ではなく、中・小規模でも自律的に取り組んで農業を日々行っている農家には、今よりもっと良いものを生み出したいという意志が強い傾向にある。農業界の新しい技術を生み出すためには、農業を内発的動機づけによって自律的に取り組んでいる人々の思考や意見が必要である。